

もだま通信

No. 19 2011. 4. 12 発行

特定非営利活動法人
成年後見センターもだま
守山市洲本町 55 番地
蛸の里職員宿舎 202 号室
TEL・FAX 077(585)5839
Eメール modama.npo@triton.ocn.ne.jp



新年度を迎えるにあたり



阪神・淡路大震災は、我々に自然の力らの大きさと怖さを知らしめ、人間の弱さも思い知らされました。反面、弱い人間でも手をつなぎ一つになることで、「復興」という大きな力になることも教えてくれました。今回の、未曾有の大震災に遭われた方々と手をつなぎ、「復興」という大きな力になれるよう、努力したいと思っております。

さて、昨年度は、後見受任や相談依頼が飛躍的に伸びました。過去2年間で後見受任した13件に、この一年のみで肩を並べる勢いです。また、訪問や申立て支援といった相談も数多く寄せられ、前年度に比べ2倍にならんとしております。

特に草津市からの依頼は多く、ご依頼に十分にお応えできていないこともあり、「もだまの体制強化」も指摘されております。3月下旬に草津市と話し合いの場を設けていただきました。順次、他市との話し合いの場を持たせて頂く予定をしており、平成24年度に向け、運営基盤の整備ができるよう、関係市と協議を進めていきたいと考えております。



講演会&シンポジウムを 開催しました

去る3月3日(木)に、ひこね燦ばれすにおいて成年後見制度推進事業として講演会&シンポジウムを開催いたしました。

今回は、湖東地域において、「障がい者・高齢者の権利擁護と成年後見について」考えていただく機会となればとの思いで開催しました。前半は、西宮市のNPO法人PASネット理事長の上田晴男氏を講師にお迎えし、地域における権利擁護ネットワークづくりや成年後見制度の利用の必要性などについてご講演いただきました。

後半のシンポジウムでは、彦根市障害福祉課職員の北条千晃氏より、彦根市の相談状況や後見制度利用の現状について、愛荘町社会福祉協議会職員の大野弘典氏より、愛荘町の地域福祉権利擁護事業の利用状況を、甲良町手をつなぐ育成会の

片岡清氏より、家族や親の想いや願いなどをお話いただきました。また、もだまからは、湖南地域での活動状況や運営上の課題などを報告しました。コーディネーターの上田氏からは、他地域での権利擁護センターの設置状況や、今後、法人後見や市民後見人の育成が重要性などを訴えられました。

参加者からは、「彦根市民はどこへ相談すればいいのか」と切実なご質問がありました。また、アンケート結果では、「学区や自治会などで、何回も市民を対象に学習会を開催すべきだ」「権利擁護と成年後見を二人三客で進めていくべき」といったご意見をいただきました。いずれにしても、今回ご参加いただいた方々が、この地域での障がい者・高齢者の権利擁護について関心をもっていただくことができたように思います。



